

目次

はじめに	
本書をお使いになる方へ	viii

問題紹介

I 文の文法1 (文法形式の判断)	2
II 文の文法2 (文の組み立て)	3
III 文章の文法	4

実力養成編

第1部 文の文法1

I ことがらを説明する☆

1課 時間関係	8
1. ～が早い	
2. ～や・～や否や	
3. ～なり	
4. ～そばから	
5. ～てからというもの(は)	
6. ～にあって	
2課 範囲の始まり・限度	12
1. ～を皮切りに(して)・～を皮切りとして	
2. ～に至るまで	
3. ～を限りに	
4. ～をもって	
5. ～といったところだ	
3課 限定・非限定・付加	16
1. ～をおいて	
2. ～ならでは	
3. ～にとどまらず	

4. ～はおろか	
5. ～もさることながら	
4課 例示	20
1. ～なり…なり	
2. ～であれ…であれ・ ～であろうと…であろうと	
3. ～といい…といい	
4. ～といわず…といわず	
問題(1課～4課)	24
5課 関連・無関係	26
1. ～いかんだ	
2. ～いかにかわらず・ ～いかによらず・～いかに問わず	
3. ～をものともせず(に)	
4. ～をよそに	
5. ～ならいざしらず	
6課 様子	30
1. ～んばかりだ	
2. ～とばかり(に)	
3. ～ともなく・～ともなしに	
4. ～ながらに(して)	
5. ～きらいがある	
7課 付随行動	34
1. ～がてら	
2. ～かたがた	
3. ～かたわら	

Ⅱ 主観を含めて説明する☆☆

8課 逆接..... 36

1. ～ところを
2. ～ものを
3. ～とはいえ
4. ～といえども
5. ～と思いきや

問題(1課～8課)..... 40

9課 条件..... 42

1. ～とあれば
2. ～たら最後・～たが最後
3. ～ようでは
4. ～なしに(は)・～なしでは・～なくして(は)
5. ～くらいなら

10課 逆接条件..... 46

1. ～(よ)うと(も)・～(よ)うが
2. ～(よ)うと～まいと・
～(よ)うが～まいが
3. ～であれ・～であろうと
4. ～たところで
5. ～ば～で・～なら～で・～たら～たで

11課 目的・手段..... 50

1. ～べく
2. ～んがため(に)
3. ～をもって

12課 原因・理由..... 52

1. ～ばこそ
2. ～とあつて
3. ～ではあるまいし
4. ～手前
5. ～ゆえ(に)

問題(1課～12課)..... 56

13課 可能・不可能・禁止..... 58

1. ～にかたくない
2. ～に～ない・～(よ)うにも～ない
3. ～て(は)いられない
4. ～べくもない
5. ～べからず・～べからざる
6. ～まじき

14課 話題・評価の基準..... 62

1. ～ときたら
2. ～ともなると・～ともなれば
3. ～ともあろう
4. ～たるもの(は)
5. ～なりに

15課 比較対照..... 66

1. ～にひきかえ
2. ～にもまして
3. ～ないまでも

16 課 結末・最終の状態..... 70

1. ～に至って・～に至っても
2. ～に至っては
3. ～始末だ
4. ～っぱなしだ

問題(1 課～16 課)..... 74

17 課 強調..... 76

1. ～たりとも…ない
2. ～すら
3. ～だに
4. ～にして
5. ～あつての
6. ～からある・～からする・～からの

Ⅲ 主観を述べる☆☆☆

18 課 主張・断定..... 80

1. ～までもない
2. ～までだ・～までのことだ
3. ～ばそれまでだ
4. ～には当たらない
5. ～でなくてなんだろう(か)

19 課 評価・感想..... 84

1. ～に足る
2. ～に堪える／～に堪えない
3. ～といったらない
4. ～かぎりだ
5. ～極まる・～極まりない

6. ～とは

20 課 心情・強制的思い..... 88

1. ～てやまない
2. ～に堪えない
3. ～ないではすまない・～ずにはすまない
4. ～ないではおかない・～ずにはおかない
5. ～を禁じ得ない
6. ～を余儀なくされる／
～を余儀なくさせる

問題(1 課～20 課)..... 92

Ⅳ 文法形式の整理

- A 動詞の意味に着目 - 1 94
- B 動詞の意味に着目 - 2 98
- C 古い言葉を使った言い方..... 100
- D 「もの・こと・ところ」を
使った言い方..... 102
- E 二つの言葉を組にする言い方..... 104
- F 助詞・複合助詞..... 106
- G 文法的性質の整理..... 108

第2部 文の文法2

- 1 課 文の組み立て - 1
決まった形..... 112
- 2 課 文の組み立て - 2
名詞を説明する形式..... 114
- 3 課 文の組み立て - 3
接続に注意..... 116

だい ぶ ぶんしやう ぶんぽう
第3部 文章の文法

1 課	時制.....	120
2 課	条件を表す文.....	124
3 課	視点を動かさない手段 - 1 動詞の使い方、 自動詞・他動詞の使い分け.....	128
4 課	視点を動かさない手段 - 2 「～てくる・～ていく」 の使い分け.....	132
5 課	視点を動かさない手段 - 3 受身・使役・使役受身 の使い分け.....	136
6 課	視点を動かさない手段 - 4 「～てあげる・～てもらう・ ～てくれる」の使い分け.....	140
7 課	指示表現 「こ・そ・あ」 の使い分け.....	144
8 課	「は・が」の使い分け.....	148
9 課	接続表現.....	152
10 課	省略・繰り返し・言い換え.....	156
11 課	文体の一貫性.....	160
12 課	話の流れを考える.....	164
も ぎ し けん 模擬試験		
第1回.....		170
第2回.....		174
ま くいん 索引.....		178

実力養成編

第1部 文の文法1

文法形式の意味と用法を知ることが、言いたいことを正確に伝える文を作るための基本です。また、ある文章を読んで正確に理解するためにも役に立ちます。その文法形式を使って意味の通る文を作るためには、意味だけでなく、どんな語、どんな活用形に結びつくのか、また、文を作るときにどんな規則を守らなければならないかなどについて学習する必要があります。

- 〔復習〕 ・玄関のドアを開けたとたん、犬が飛び出してきた。
 ・空が急に暗くなったかと思うと、大粒の雨が降ってきた。
 ・この町に引っ越してきて以来、毎日駅まで20分歩いています。

1 ~が早い

⇒ ~するとすぐ続いて次のことが起こる。

- ① 海外旅行に出発の日、山田さんは空港に着くが早い、コンビニに駆け込んだ。
 ② うちの子はいつも学校から帰ってきて、かばんを放り出すが早い、遊びに行ってしまう。
 ③ 今朝、寝坊した夫は、朝ご飯を口に押し込むが早い、玄関を出ていった。
 ④ 話題のその本は、店頭で並べられたが早い、飛ぶように売れていった。

🔗 動 辞書形/た形 +が早い

- ⚠ 瞬間的なことを表す動詞につく。後には、少し意外感がある事実を表す文が来る。話者の希望・意向を表す文や働きかけの文は来ない。

2 ~や・~や否や

⇒ ~とほとんど同時に次のことが起こる。

- ① わたしはその人の顔を一目見るや、30年前に別れた恋人だと気がついた。
 ② 子供たちは唐揚げが大好物で、食卓に出すや、あっという間になくなってしまう。
 ③ 選挙戦が始まるや否や、あちこちからにぎやかな声が聞こえてきた。
 ④ この病気の新しい治療法が発表されるや否や、全国の病院から問い合わせが殺到した。

🔗 動 辞書形 +や・や否や

- ⚠ 瞬間的なことを表す動詞につく。後には、事実を表す文が来る。話者の希望・意向を表す文や働きかけの文は来ない。

3 ~なり

⇒ ~という動作にすぐ連続して次のことをする。

- ① 彼はコーヒーを一口飲むなり、吐き出してしまった。
 ② 課長は部屋に入ってくるなり、大声でどなった。
 ③ 田中さんは携帯電話を切るなり、わたしを呼びつけた。

🔗 動 辞書形 +なり

- ⚠ 後には、少し意外感がある意志的な動作を表す文が来る。主語はふつう三人称で、前後の主語は同じ。



4 ~そばから

⇒～をしても、すぐにそれに対抗するような動きがあり、それを何度も繰り返す。

- ①毎日返事を書くそばから次々に新しいメールが来る。
- ②このテキストは漢字が多くて大変だ。調べたそばから新しい漢字が出てくる。
- ③月末になると、払ったそばからまた別の請求書が来る。

動 辞書形/た形 +そばから

良くないことに使うことが多い。

5 ~てからというもの(は)

⇒～してからある変化が起こり、その後ずっと同じ状態が続いている。

- ①娘が大学に入り家を出ていっててからというもの、家の中が寂しくなった。
- ②子供が生まれててからというものは、子供のおもちゃばかり見て歩いています。
- ③日本に来ててからというもの、国の家族のことを思わない日はない。

動 て形 +からというもの(は)

あまり近い過去からの期間には使わない。後には、変化後の状態が継続していることを表す文が来る。

6 ~にあって

⇒～のような特別な状況だからこそあることが起こる・～のような特別な状況でもあることが起こる。**狭い言い方**

- ①らくだは乾燥地にあって、こぶに栄養を蓄えることによって生き延びているのである。
- ②明治時代の初め、日本はまさに発展途上期にあって、みな生き生きとしていた。
- ③最近の不況下にあっても、この会社の製品は売れ行きが落ちていない。

名 +にあって

状況・時期・場所などを表す名詞につく。後には、①②のようにその状況でないと起こらないようなことを言う文、または③のようにその状況に反することを言う文が来る。その場合「～にあっても」という形になることもある。



5

- 1 ()というもの、体の調子がいい。
a 朝起きてから b たばこをやめてから c さっき薬を飲んでから
- 2 あの先生の話聞いてからというもの、()。
a 人生についていろいろ考えている b 先生の著書を3冊買った
c 先生の考えに同感した
- 3 会社を辞めてからというもの、()。
a 新しい仕事を始めた b 初めて外国旅行をした c 毎日のように釣りをしている

6

- 1 木村氏は()にあつて、日々多忙なスケジュールをこなしている。
a 一国の指導者 b 一国の指導者という立場 c 二つの仕事
- 2 母は()にあつて、子供たちのことを心配している。
a 病床 b 仕事中 c 多忙な日常
- 3 このような緊急時にあつても、()。
a 彼は驚いている b わたしは彼を探した c 彼は落ちついている

1~6

- 1 彼は不正が()退職した。
a ばれるが早いか b ぼれてからというもの c ばれるそばから
- 2 父はわたしの顔を一目()笑い出した。
a 見てからというもの b 見るなり c 見たそばから
- 3 片付ける()、子供たちがまた部屋を散らかす。
a が早いか b そばから c なり
- 4 サッカーのワールドカップを一度()、僕はサッカーに夢中になっている。
a 見るや否や b 見るなり c 見てからというもの
- 5 入場の受け付けが()、係の人たちは急に忙しくなった。
a 始まるや否や b 始まってからというもの c 始まるそばから
- 6 行方不明の子が見つかったという知らせが()、家族は泣き出した。
a 入るや b 入るそばから c 入ってからというもの

実力養成編

第2部 文の文法2

語と語を結びつけて意味の通る文を組み立てるためには、文法的な決まりを考えながら語を並べていかなければなりません。文法形式の意味や用法がわかることだけではなく、実際に文を組み立てられることが大切です。

文を組み立てるときは、組み立てのルールに従わなければなりません。そのうち、ぜひ覚えておくべきルールは次のようなものです。

1 後に否定の言い方が来るもの

- ・～をおいて こんなアイデアが出せる人は高橋さんをおいてほかにいない。
(第1部3課)
- ・～なしに(は) チームワークなしにはこのプロジェクトは成功しなかつただろう。
(第1部9課)
- ・～たところで 今さら悔やんだところで、もう取り返しはつかない。(第1部10課)
- ・～(よ)うにも 疲れていて起き上がろうにも起き上がれなかつた。(第1部13課)
- ・～に 家を出るに出られない事情があつて、このところ外出していない。
(第1部13課)
- ・～たりとも 運転中は一瞬たりともよそ見をしてはいけない。(第1部17課)
- ・～だに こういうことになるとは想像だにしなかつた。(第1部17課)
- ・～にしたところで わたしにしたところでいい案を持っているわけではない。(第1部D)

2 疑問詞につくもの

- ・～ともなく どこからともなく鳥が鳴く声がか聞こえてきた。(第1部6課)
- ・～であれ・であろうと どんな企画であれ、しっかりとした準備が必要だ。(第1部10課)
- ・～たところで だれが何を言ったところで、彼は聞く耳を持たない。(第1部10課)
- ・～にもまして わたしにとって音楽は何にもまして心をいやしてくれるものなのです。
(第1部15課)

3 数字につくもの

- ・～といったところだ わたしの家から駅まで、7、8分といったところです。(第1部2課)
- ・～たりとも 今は1分たりともぼんやりしてはいられないのです。(第1部17課)
- ・～からある 母は15キロからある荷物も軽々と運ぶ。(第1部17課)
- ・～というもの(は) この10年というもの、仕事に追われて趣味を楽しむ余裕がなかつた。
(第1部D)



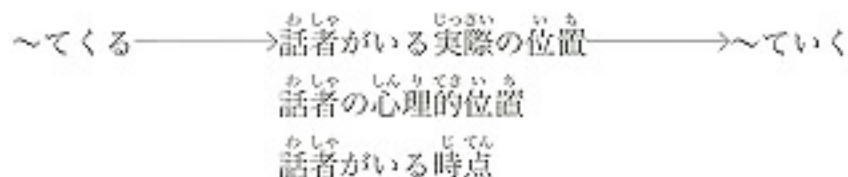
次の文の★に入る最もよいものを、1・2・3・4の中から一つ選びなさい。

- ① この旅行で _____ ★ _____ でも気軽に話せたことだ。
1 何 2 だれと 3 にもまして 4 良かったことは
- ② 帰国後 _____ ★ _____ だった。
1 1か月 2 連日 3 職探し 4 というもの
- ③ 祖母が _____ ★ _____ 歌は、わたしが知らないものばかりだ。
1 聞かせる 2 歌う 3 ともなく 4 だれに
- ④ 父は釣ってきた _____ ★ _____ すると言った。
1 1匹 2 粗末に 3 魚は 4 たりとも
- ⑤ _____ ★ _____ 時間は取り戻せない。
1 後悔した 2 過ぎた 3 ところで 4 どんなに
- ⑥ 彼女の _____ ★ _____ あるのだろうと思って、何も聞かなかった。
1 話せない 2 話すに 3 退職には 4 事情が
- ⑦ 将来 _____ ★ _____ だけは大切にしたい方がいい。
1 人間関係 2 仕事をするの 3 どんな 4 であれ
- ⑧ この案に不賛成なら代案を _____ ★ _____ 名案があるわけではない。
1 わたしに 2 言われても 3 出せと 4 したところで
- ⑨ 転職する _____ ★ _____ と思って決心した。
1 時期は 2 考えられない 3 ほかに 4 今をおいて
- ⑩ 今晚中に戦後史について _____ ★ _____ を読まなければならない。
1 資料 2 100 ページ 3 書かれた 4 からある
- ⑪ 部品がない _____ ★ _____ 直せないではありませんか。
1 といっても 2 のでは 3 直そうにも 4 大切なミシンだから
- ⑫ 責任者の _____ ★ _____ はできないんです。
1 許可 2 入室 3 部外者の 4 なしには

実力養成編

第3部 文章の文法

文はいくつか連なって一続きのまとまり(文章)になります。しかし、一文一文がただ並んでいるだけでは文章とは言えません。一連の文がまとまって文章という単位になるには、文がゆるやかな決まりに従ってつながっている必要があります。文章にまとまりを与えるゆるやかな決まりが「文章の文法」と呼ばれるものです。

A 「～てくる・～ていく」をつける場合^{ばあい}

◆動作の方向や話者のいる位置をはっきりさせるために、移動の動詞や方向のある行為を表す動詞には「～ている・～てくる」をつけたほうがいい場合があります。

例 × 先週、国からお客様が訪ねた。(どこを訪ねたかわからない。)

○ 先週、国からお客様が訪ねてきた。(話者のところを訪ねた。)

? 隣に住んでいる人はいつもいろいろ文句を言うので、気をつけよう。

(だれに文句を言うのかわからない。)

○ 隣に住んでいる人はいつもいろいろ文句を言うてくるので、気をつけよう。

(話者に文句を言う。)

B 視点の位置^{してん いち}

◆視点の固定：現在話者が実際にその位置にいなくても、心理的に話者のいる位置に視点を置いて述べることができます。

例・わたしは毎年沖縄の実家に帰る。今年はいとこたちが子供を連れてくると言っていた。

(話者の心理的位置=実家)

・実家には何年も帰っていないが、今年はいとこたちが子供を連れていくと言っていた。

(話者の心理的位置≠実家)

◆視点の移動：複文、または文章の中で話者の心理的位置が変われば、視点も変わります。

例・昨日、学校へ本をたくさん持っていくと、リンさんも大きな荷物を抱えてきた。

(話者の(心理的)位置=家→学校)

・大きな道具はここに置いていこう。そうすれば、だれかが気がついて会場まで持ってくるだろう。

(話者の(心理的)位置=ここ→会場)



◆小説や情景の描写などでは、書き手は感情移入している登場人物の視点に立って書くことが多いです。

例・いつものカフェでコーヒーを飲んでいると、背の高い男が近づいてくるのが見えた。男は、かおりがそこにいることに気がつくのと、さっと振り向いて足早に駆け^①ていった。追っ^②ていこうとしたが、すでに姿は見えなくなっていた。

登場人物　：かおり　男

書き手の視点：かおり側へ　①～てくる

かおり側から　②～ていった　③～ていこう

練習1　どちらか適当な方を選びなさい。

- 1-a 下山途中、けがをしてしまった。だんだん暗くなってきた。遠くに明かりが見えたので、足を引かずって(a きたら　b いったら)民家だった。その日はそこに泊めてもらうことにした。
- 1-b 下山途中、けがをしてしまった。辺りは暗かったが、この山小屋までやっとの思いで歩いて(a きた　b いった)。今日はここに泊めてもらうことにした。
- 2-a ベルトコンベアで部品が運ばれて(a きた　b いった)。わたしのアルバイトはこの部品を箱に詰める仕事だ。
- 2-b 工場でき上がった商品は、出荷のためにベルトコンベアで運ばれて(a きた　b いった)。これからあの電気製品は、日本から遠く離れた国の人たちにも使われるのだ。
- 3-a 電話が鳴ったので受話器をとると、田中さんへの電話だった。食事に出かけたと伝えているちょうどそのとき、本人が帰って(a きた　b いった)。
- 3-b 電話が鳴ったので受話器をとると、田中さんへの電話だった。ちょうど事務所を出て(a きた　b いった)ばかりだったので、伝言を聞いておいた。
- 4-a 博物館の展示を見た後、出口のところで偶然友達に出会った。それで、一緒にお茶を飲みながら、近況や、見て(a きた　b いった)土器のことを話した。
- 4-b 博物館の入り口のところに「歴史的に古いものから順番に土器が並べられていますから、順番に見て(a くれれば　b いけば)、自然に出口に出ます。」と書いてあった。

練習2 どちらか適当な方を選びなさい。

- 1 大阪へ出張の日のことだった。この1か月、次第に仕事の量が多くなって(①a きたので b いったので)疲れていた。駅に向かう途中、大阪での会議のためにもう一つ別の資料を持って(②a きた b いった)ほうがいいことに気がついた。会社に電話したら、田中さんがすでに出て(③a きていた b いていた)。わたしは電話で田中さんに、これから東京駅へ向かい、改札口で待っているから、東京駅へ資料を持って(④a きて b 行って)ほしいと頼んだ。
- 2 10歳までわたしはタイに住んでいた。家はとても広かった。何人お客さんが訪ねて(①a きても b いても)大丈夫だった。わたしはお客さんが持って(②a くる b いく)お土産が楽しみだった。でも一番うれしかったのは、ときどき日本から送られて(③a くる b いく)祖母からのお菓子だった。昨年、昔住んでいた家を訪ねてみた。懐かしい家に近づいて(④a くると b いくと)、昔のままの空気が感じられた。
- 3 学校の遠足の付き添いは大変だ。ある時は先頭になって歩いて(①a くる b いく)し、またある時は子供たちの一番後ろに回って、全員が先頭の先生に(②a ついてきているか b ついていっているか)を確認しながら歩かなければならない。
- 4 留守番をしている子供に電話して、宅配便の人が荷物を持って(①a きたら b いったら)、受け取っておくようにと頼んでおいた。そして、お父さんが帰って(②a きたら b いったら)、お母さんはおばあちゃんの家りんごを持って(③a きた b いった)と伝えるように言った。
- 5 これまでわたしは写真家として、「暮らし」をテーマに撮り続けて(①a きた b いった)。そして、写真を撮るだけの人間として、社会的発言は控えて(②a きた b いった)のだ。しかし、この度の事件をきっかけに、世界の枠組みが大きく変わって(③a くる b いく)のを感じている。すでにわたしは60歳を越えているが、残りの人生は今までの自分から脱皮し、発言をして(④a くる b いく)べきだと考えている。



【まとめ】 次の文章を読んで、文章全体の趣旨を踏まえて、 から の中に入る最もよいものを1・2・3・4から一つ選びなさい。

昔から日本人は山からの恵みを得て 。山には多くの森林がある。森林は材木の宝庫であるだけでなく、空気中の炭酸ガスを吸収してくれるので、環境保護にはなくてはならないものだ。

日本は国土の約7割を森林が占めている。こんなに多くの森林があるのに、林業をする人や山村に 人が減って、森林の手入れが行き届かなくなっている。森林の手入れとは、木の下に 草を取ったり、木と木の間に適度な空間ができるように、植え方を調節することである。この手入れをしないと、元気な森林にはならない。

また、最近ではもともと日本にはない、外国から 植物によって、森林のバランスが崩れてきている。これらのバランスを取り戻すための手入れも必要になっている。

日本は世界に向かって温室効果ガスを減らすと約束している。この約束を果たすため、森林の国日本は、森林による炭酸ガス吸収に頼る部分が多い。それにはどうしても森林の元気な力を取り戻す必要がある。政府もいろいろな対策を考えているが、まだまだ不十分だ。どうすれば豊かで元気な森林を ことができるか、民間レベルでも真剣に考えるべきときが来ていると思う。

【1】

1 暮らしてくる 2 暮らしていく 3 暮らしてきた 4 暮らしていった

【2】

1 住む 2 住んでいた 3 住んでいく 4 住んでくる

【3】

1 生えてくる 2 生えていく 3 生えていった 4 生えていた

【4】

1 出ていった 2 出てきた 3 入っていった 4 入ってきた

【5】

1 守ってくる 2 守っていく 3 守っている 4 守っていった